いわき民報
發行所 いわき民報社 平市田町一番地（電話三八一番）
發行兼編輯印刷人 千輝克己
日刊 但月曜日を除く
定價 一ケ月五円 一部二十錢

11/7
メトロゴールドウヰン製作
マーガレット オブライエン主演
迷へる天使
聚樂館

市郡下の田植え完了
喜べ今年は先づ豐作疑なし

憂慮せられた水不足も去月三十日來の梅雨形な天候に惠まれて漸く解消、九百町歩に上つた植付不能も九日で全部植付けを終り市郡下の田植はこゝに完全終了した、植付けは例年よりは十日余遅れたが、苗代の被害が殆んど皆無であり、現在の小名濱測候所あたりの觀測も又農業會あたりの永年の經驗から割出された觀測からみても且つ統計からみた週期率的觀點からしても、今後著しい天候異變さへみずにゆけば、終戰による復員、歸農等々により戰時中癌とされた人手不足も緩和されたので、凡ゆる点からみて惠まれた條件下にあるので、先づ本年の米作は久方振りに豐作で豐民達に豐年万作踊も許されやうと心强い豫想が下されてゐる

戰災校の復興促進へ
平市敎職員組合も遂に立つ

縣下各地の敎職員組合は單一勞働組合結成大會を來る十六日福島市第一國民校に開くが、之に先だち新妻熊雄氏を委員長とする平市敎職員組合では本十日磐城高女に委員會を開き大會出席の支部代表二名を選擧すると共に平支部の提出事項として左記項目を審議する

一、男女敎員の差別徹廢
一、飢餓突破資金として五百圓及び家族手當百圓の支給
一、中等敎員の定員增加
一、戰災校々舍の復興促進
一、視學制度の改善

尙四市中最大の被害校として第一國民校、第二國民校、平商の復興如何は敎育上由々しい問題として敎員側からも積極的に之が促進運動に乘出す事になつた

植田勿來に磐炭聯支部
委員長は富永氏

植田、勿來、上山田、東海、日新、大昭、黑田、田人、三和の各炭礦勞働組合では來る二十一日常磐炭聯植田勿來支部を結成することに決定したが委員長には去七日の結成準備會で大昭炭礦の富永政治郎氏と決定された

大道異變
平中　齊二

▼「――是でも元は旗本だ。旗本の元は淸和源氏で、多田の滿仲の後裔だ。こんな土百姓とは生れからして違ふんだ。只智慧のない所が惜しい丈だ。――」とは夏目漱石が『坊つちやん』をして息卷かせてゐるところ。▼怒つてはいけない。さういふ時代もあつたかと、お笑ひ下されば結構。今の時代に、こんなことを書いたり云つたりするやうでは叩きのめされるであらうが昔だつて決して良いと云ふのではない。▼如何に百姓が馬鹿にされ、踏みにじられて來たか、民主主義が從來如何に等閑視されて來たかを反省すれば足りる。▼數年前、私は或る會合で名刺を貰つたが、その名刺の肩書に『百姓』と、堂々と書き込んであつたのを見て、いたく感激したことであつた。▼職業に貴賤なしといふ肩書や洋服の良否や、貧富に依つて人間の價値は決定しない筈。淸く正しく生きれば、その人こそ尊敬に値する人だ。地位をつけるならば、そんな人こそ上位におくべきものと思ふ。▼然るに現在でも所謂敎養のある人や、指導的立場にある人が職業の種類、貧富等々の外的條件に依つて人格價値を云々してゐるのは、國家社會を毒するものだ。▼淸き故に貧しきあり、濁るが故に富み、濁れるが爲に貧しきもある。人間の價値判定の規準は、善美の程度や眞實の如何にあることを知らねばならぬ。

小名濱泉間のバス復活さる
今十日から新鋭車輛を配置して

常磐自動車株式會社では新車購入と同時に、十日から小名濱、泉間の路線を開通復活することに決定した、料金は大人、小人共に壹圓とあるが、海水浴を控へてのこの開通は浴客にとつても列車の混雜さが想像以上の折柄大きな便利をみる譯で期待されてゐる、時間割は左の通りとある

泉發	小名濱發
六、二〇	七、〇〇
七、四〇	八、〇〇
八、四〇	九、三〇
一〇、一〇	一〇、二〇
一一、一〇	一二、〇〇
一二、四〇	一三、〇〇
一三、四〇	一四、〇〇
一四、四〇	一五、三〇
一六、一〇	一六、二〇
一七、一〇	一七、三〇
一八、一〇	一八、三〇
一九、一〇	

鬪爭本部を平局へ
濱通り全局を一丸にして 本部長には三浦芳勝氏を

全遞の爭議に呼應、平市及び濱三郡下の八支部從業員千五百名は八日平局に全遞從組平鬪爭本部を結成、看板を掲げると共に完全な鬪爭態勢を整へた、本部の指令あり次第ストライキに移行の諸準備も整へてゐるが、飽迄大衆の支持と同情を得るため極力サービスの强化に努めるとゝし、平局從組執行委員長三浦芳勝氏を本部長に、酒井善治氏を副本部長とし、作戰本部及び書記局をも設置した、作戰本部は遊說、ポスター、宣傳部、部內對策の各部門別に主任を設け八十余の特定局をがつちり固めると共に九日から各要所〳〵にポスターを貼付掲示、市內活動常設館では同日から一日三回宛映畫の合間に觀衆に今回の鬪爭趣旨及び食へねど經營管理は許されぬ實情を訴へ始めた、書記局では縱と橫の連絡に萬全を期する庶務一切を處理するが局長及び各課長級は局外に置くとある

稀代の枕探し
檢擧さる
會田巡査の殊勳

大沼郡西山村生れ無職猪俣留治（二三）は去る三日湯本町古瀧溫泉旅館に宿泊中隣室の入遠野村農平子利美さんの枕下から現金三百四十圓を盜み、全町駐在會田巡査に捕はれたが取調べの結果全人は去月二十一日仙臺市米袋町南成源作さん方から現金四千六百圓と六千四百圓積立の封鎖預金帳を盜み湯本局で七月分として二百圓と六百圓の二回拂戾した外郡山市でも千四百圓を拂戾し遊興に費消してゐたことも判つた

四倉罐詰工場
勞組を結成
分會長猪狩誠氏

四倉町農業會罐詰工場では今度縣農業會職員勞組分會を結成、三日結成式を擧げると共に役員の詮衡中だつたが、九日左の如く決定された、尙その綱領も同日發表された

▼綱領

一、我等は健全なる自由的組織の下に公正なる勞働條件の實現を圖り生活の安定と技能の錬磨文化の向上に努め以て職責の完遂を期す
一、我等は勞働の社會的意義を顯揚し勤勞農民の同志たる自負の下に農業團体の本義に徹し自主積極經營の公正を實現せんことを期す
一、我等は社會正義に立脚し一切の因習を打破し農民の自由的組織運動を强力に展開し以て新生農村の建設に寄與せんことを期す

▼役員分會長猪狩誠、執行委員根本益材外四名

雜纖維收荷に拍車
春蠶繭の收荷は九日で終了す

郡下の春繭は九日澤渡三阪の收荷で終つたが割當の一萬一千五〇〇貫に對して九五％（一萬一千貫）の上成績を擧げた、秋蠶の掃立は十七、八日頃から始まるが蠶種不良に依る減産防止のため來る十三日懇談會を催し特に注意する、同時に衣料品の纖維原料としての茅葺及雜纖維としての桑皮、藤皮、竹皮の割當及報償も決定したので學校當局にも學童の積極的協力を要望してゐる

▼茅葺一四、六〇〇貫▼桑皮三、九〇〇貫▼藤皮一六、一〇〇貫▼竹皮二、一〇〇貫

報償は茅葺二貫匁に對して疊表一枚、雜纖維一〇貫匁に對し洋紙四〇枚（無償）八〇枚（有償）等で又近く學童用として四百着の衣料品も配布される、養蠶家への特配酒は十貫匁に對して淸酒二合とあり煙草も特配される

第三校で研究會を

國民校の新敎授法の研究並に徹底を期するため九日平第三校で市內國民校敎師連の研究會を開き授業參觀も行はれた

ヒバリ樂團演奏會開く

平市ヒバリ樂團の演奏會に八日午后三時から市公會堂日本間で開催した

五十圓以上は御法度
遊興飲食の新枠
一品五圓が限度　主食類販賣嚴守

危機突破の一對策として十日から一人五十圓以上の遊興は許されぬことになつた、同時に一皿一品五圓以上の料理、三回以上の飲ものも許されないことになつた、一人五十圓以上の遊興は許されぬといへ藝妓の玉代はこれに含まぬことになつてゐる、然し稅金は加算されるので藝妓を除いてお銚子一本に料理としても五割の稅金が含まれるので料理の正味は三十圓そこ〳〵となるので滿足な料理も原料が闇の折柄食へぬといつた譯、尙米は勿論、主食糧となる豆やイモ類の販賣も許されぬこと〻なつた

婦人子供服一般　ワイシャツ　開襟シャツ
動衣改造更生法（裁ち方と縫方）
新時代の洋裁講習會
一、日時　七月十二、三、四日朝八時半より三時迄
一、會場　平第二國民學校禮法室
講師　本學院敎師　安藤富美子　添田トシイ　松崎功
會費十圓（物指、筆記用具持參のこと）
主催　郡山市　安積高等洋裁學院
後援　福島民報社

今週の潮位

舊曆（六月）	滿潮 時分	干潮 時分
十日（十二日）	〇、四〇	八、三
	一五、二〇	二〇、〇〇
十一日（十三日）	一、一五	九、一五
	一六、二五	二〇、五五
十二日（十四日）	二、一五	九、四五
	一七、一五	二一、五五
十三日（十五日）	二、五五	一〇、一五
	一七、四〇	二二、五五
十四日（十六日）	三、三〇	一〇、五
	一八、一〇	二三、〇五
十五日（十七日）	三、四五	一一、二〇

いわきすい言

▼田植え市郡下を通じ完了、尙氣象統計その他の各方面から觀測して先づ豐年型とは話だけでも心强い是非話でなく實現させたいもの

▲濱通りの各郵便局、鬪爭本部を平局に設け、九日から完全鬪爭に入る、サービス强化で大衆の支持を失はぬやう心すべし、大衆の支持なくして勝つた例なし

▼このため平素と違つて電話の出方の早いこと、これだけでも大衆に甚だ助かる、いつまでも爭議氣分を忘るべからず

▼小名濱、泉間のバス十日から新車を配して復活、小名濱臨鐵と競走だ、競爭となると自然サービスも强化されやう、乘客にとつては何といつても便利なこと大いに競爭すべし

濱の文化運動にみる
急速な進展振りが注目の的

總戰後凡ゆる軍國主義下に於ける桎梏が除却されると共に言論出版の自由が許されたのに應じ、各地に文化運動が俄然活潑化し種々なる團体が誕生殊に勞組の文化部を中心に〃勤勞青年文化聯盟〃の結成をみる等華々しいものがあるが何れも平市を中心としたものが多く、濱地方は殆んど無關心狀態に置かれた、ところが小名濱町に文協の結成を見るや各濱の文化運動も果然活潑化し、その豐富な資力にものいはせて素晴しくそして急速な發展振りに　あとの雁が先にの感を抱かしめてゐる、この傾向は日を經るに從つて濃厚化してゐるが、果して今後の濱の文化はどうゆくか？先進の小名濱町についてみる――

絢爛たる小名濱
江名、四倉にも胎動をみる

先づ濱の先進地小名濱町では去月全町の凡ゆる有志、文化人を網羅して極めて强力なる〃小名濱文化協會〃が結成されたのを機に、平市の渡邊何鳴氏等の率ゆる俳句の會〃野薔〃に比される古い歷史をもつ石井芳江氏等の指導する〃あざみ〃が舊同人を中心に新鋭を網羅しその名も〃眞珠〃と改めて七月號から謄寫ながらも藝術味豐かな俳誌を發刊すれば、大和民雄君を中心に綜合藝術同人雜誌〃みち潮〃が誕生され、これ又創刊號を七日に發刊するといふ華々しさ、この外全町には音樂團の計劃、劇團の胎動すらみてゐる力强さ更らに江名、四倉にも夫々目下劇團の結成やら同人雜誌の計劃やらが進められてゐる、たゞ注目すべきは濱の文化が綜合的にどう纒められるか、たゞ文化人の神經質さから各自の殼に閉ぢ籠つて所謂群雄割據の弊さへ生じねば縣下でも强力さに於いては敵はなぐ、その前途はます〱洋々乎たるものがあらうといわれてゐる

衣類金属 書畫骨董 高價買入レ
平市南町 中央會館

小名濱文協 活動開始
會報や俳誌發刊

新發足の小名濱文化協會では去月二十六日會報を發行すると共に左記の如く各部を結成、夫々活潑な活動を開始した

◈文藝部　石江芳江氏等を委員に先づ俳句雜誌〃みち潮〃を發刊續いて短歌、雜誌〃いさりび〃も發刊の準備中この外文學、音樂、演劇、映畫、カメラ等にも進出する

◈研究部　西方芳郎氏等を委員にローマ字、英語、英會話エスペラント、科學等に進出の計劃でゐる

◈普及部　坪内清氏等を委員に講演、講習會出版等を行ふ

◈圖書部　松崎勳氏等を委員に圖書室の設置、圖書の共同購入紹介回覧等を行ふ

◈少年部　樋口道三氏等を委員に少年の指導や童話會、兒童演劇等から紙芝居その他にまで進出する

◈運動部　木田谷平氏等を委員に各種のスポーツを中心とした文化的集りとして活動する

市郡下の勞組會議
平勤勞署に於て

市郡下六十の勞働組合では九日平勤勞署に代表會議を開き、縣勞働組合委員松本榮一、猪狩勝已の兩氏から縣勞働組合の動向その他を聽取することになつたが、勞組の健全な發達を期するには相互扶助精神に依るのみとありこの問題についても具体的協議を進める計劃とある

全石城軍遂に敗る
對全福島陸上競技大會成績

全石城對全福島の對抗陸上競技大會は七日午前九時から平市磐城高女校庭で開催した、練習不足とグランドゴデイションの不良により、好記録は遂に生れなかつたが、各選手の意氣もの凄く久方振りにフアンを喜ばせたゞ古豪の顏觸の殆んどみられぬは一抹の寂しさを感ぜしめた當日の記録は左の如くで、白熱的熱戰の結果僅か二点の差で全福島軍に凱歌はあがつた

【トラック】
六十米/七秒五青田（福島）2草野（石城）3丹治（福島）4佐藤（石城）
◈百米　/一二秒二田卷（石城）松本（福島）3高崎（石城）4吉川（福島）
◈四百米/五八秒五高崎（石城）2鈴木（福島）3植松（石城）4松井（福島）
◈五千米/一八分五四秒五片平（福島）2安藤（福島）3重石（石城）
◈四百米繼走/四九秒二（石城チーム渡邊、田卷、高崎、金成）2福島チーム
【フキールド】
◈走幅跳/六米四五青田（福島）2松本（福島）3富澤（石城）4山家（石城）
◈走高跳/一米七〇青田（福島）2鈴木（石城）3高崎（石城）
◈砲丸投（一二ポッド）/一〇米六〇山家（石城）2松本（福島）3石卷（石城）4細川（福島）
◈三段跳/一二米五〇山家（石城）2青田3古川（福島）4武藤（城石）
【番外競技】
◈棒高跳/三米五〇青田（福島）山家（石城）3高崎（石）城
【得点合計】
福島四二点五　石城四〇点五

生活と文化　聽潮庵雜記
―主として『トラホーム』に關する覺書―
筒井榮

（2）

トラホームの病原体はロツクフエラー研究所に於て野口博士が我國に於いては石原敎授の研究があるが今日迄決定はされてゐない。流行地は日本、朝鮮、中國を始め東亞の國々、西洋では地中海沿岸、蘇聯等に多い。然し英、獨、北歐、和蘭等ゲルマン民族には殆んどないといふことだ。米國では野口博士がトラホームの病原体の研究に際してその材料を獲るに苦心されたから、察すると殆んどないといつても過言ではあるまい。

こんな笑へぬ笑話がある。鄕里出身の一外交官が、多分大正の末期だつたらうか、當時英國大使館在勤中だつた由、何時となしに兩眼が霞んで來て、揚句一眼に痛みを覺えたため、附近の眼科醫を訪ねて治療を受けたが容易に輕快しなかつた。その中に之は『トラホーム』だから獨逸で治療を受けたらよからうとの事で、海を渡つて獨逸に赴いた。此處では大變珍しい例との事で綸にかゝれ、學生に見學やら、なにやらされた上『トラホーム』の治療は矢張り日本が一番進步してゐるとの事で賜暇の上日本に歸つた

開放
投書を歡迎す　要點批判結構　紙上匿名可

長瀨君の責務

▼…小名濱の自治制實施以來七代目の町長鈴木榮氏時代に屆として町吏たるべき發足をしたのが長瀨君である。當時の乳臭兒が九代目の町長高木保君の助役たらうとは神ならぬ人間では誰が想像し得るものがあつたらうか

▼…長瀨助役は僅かに本町での最高學府實業學校を卒業した許りである、之から見ても屆以後の彼の勤勉精勵と活潑明敏、耳から入れば目から出と云ふ敏さをもつ氣性が重用され小野町長の晩年高木町長となつては遂に伸し上げたのも彼が不斷の努力からである

▼…高木君とは從弟の間柄で何れも堀越家より出て居る、高木に配するに長瀨を向けた事も高木の優柔性に長瀨の彈力性が調和せしめるに在つた、處が高木は遂に長瀨を助役として使役し得ず茲に自治制以來嘗てない助役不認可問題となり二十五年の吏僚生活から一ケ年に余る浪人生活に轉落した

▼…然し長瀨君には閑閥とも言ふべき背景がある、野崎貞行君

感である、野崎君は浪人長瀨を引き取つて漁業部の會計たらしめた、こゝで彼は加工業まで力を入れ人知れざる蓄財をも握つて助役何んぞ戀するものぞと云ふ態度を示した

▼…然し二十五年と云ふ彼の町役場に對する足跡は決して弊履の如く取扱ふ勇氣もなく寒灯一穗の許一杯を傾けたる時には彼も過去を顧みて吏僚の味ひを想起しては自失せざるを得ない場合も屢々であつた事を窮ぶに難くない

▼…斯くて志賀町長の登場となり返り咲きを見るに至つた、經綽は彼長瀨助役も能く知つて居ると同時に志賀町長の打つた手も能く承知して居る、茲に長瀨の本領、吏僚としての天職を盡す彼の全智全能を發揮すべき時代が轉廻して來たのである

▼…志賀町長に對する恩義などは私情だ、二萬五千の町民を、この緊迫せる食糧事情を先頭に失業救濟、敎育、衛生、吏生、土木と云ふ風に仕事が堆積して居る之れを片端しから整理して安住せしむると云ふのが公生涯に課せられた君の任務とせねばならぬが、緊褌一番の秋である事を進言して失禮する（球生）

祝四倉支局開設

日東紡績株式會社 四倉工場 電一六九番

四倉町三業組合 ◇旅館部 ◇飲食部 第三種 電一六四番

福島縣木造船組合 電一六三番

小湊醫院 電二七番

四倉魚商組合 共販部 電五五番

農業會 會長 長谷川酉一郎 電一三六番

株式會社 萬年瓦工業 電一二八番

株式會社 常磐礦業 電三八番 一二三

飯田友吉 四倉町新町

柏屋

旅館 鈴木屋 電一〇四番

株式會社 興亞工業 四倉町家町 電一七番

建築請負業 片寄傳右衛門 電（呼）三番